廣讃寺ジャーナル

第141号
（発行所）
真宗大谷派
松岡山 廣讃寺
中村区城屋敷町3-30
TEL(052)411-5301
FAX(052)411-5341
携帯 090-1568-4623
〈E-mail〉
matsuoka@kosanji.or.jp

偽を生きる

インターネットやテレビ、新聞の情報をみると「これは本当か嘘か」と考えるようになった。特にインターネットでの情報は明らかに嘘の情報がまん延している。さらにテレビや新聞の情報にも疑いを持つようになってきた。

とはいえ、人間の作り上げる世界は信用ならないものばかりである。そして自分自身も嘘を言い信用ならない輩である。もちろん他人もそうで、嘘を言うし完全に信用をおけるということは絶対にない。自分も嘘にまみれ、他人も嘘にまみれ、何が本当だかわからない。いや本当のことなどあるのだろうか。

その一方で真実という言葉がある。親鸞聖人は語る。よろずのこと、みなもって、そらごとたわごと、まことあることなきに、ただ念仏のみぞまことにておわします（歎異抄）

我々がこれこそ本当だと思うのはすべて嘘。念仏だけは真実なりと。

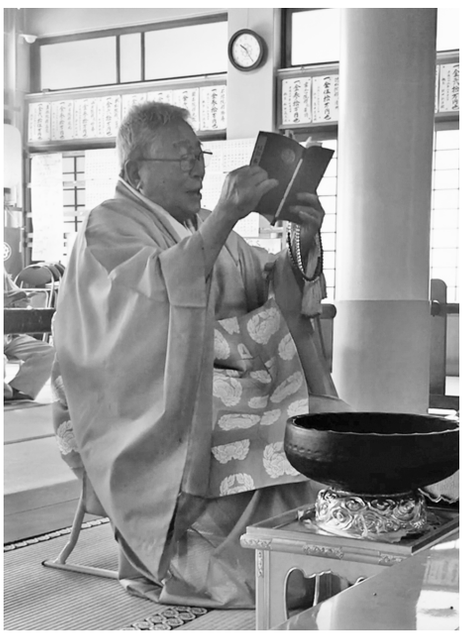
私　伊藤和美がお坊さんになった物語

伊藤 和美

昭和三十九年十二月一日、廣讃寺本堂落慶法要が勤められた。その時、父よりその法要に行くように言われた。

その日は御移徒法要（阿弥陀様を移動する儀式）が行われる。仮本堂から新しく建てられた本堂へ阿弥陀様を移すのである。

寺に着くと係の人にハカマをつけてもらって仮本堂に行く。そこには阿弥陀様は横に寝かせて置いてあった。年配の人から私に



「若い衆、阿弥陀様をこの箱の中に入れるから阿弥陀様の足を持て」

と言われたので足を持ち何人かで箱に入れた。箱にかつぎ棒を紐でしばりつけて六人で持つことになった。

開始の合図が出ると、総代を始め寺役員、法中、住職、稚児の行列となり仮本堂から新本堂へと移動する。その行列の中に阿弥陀様の入った箱をかつぐ私たちがいた。

私は当時三十二歳で寺の中で一番若かった。

かついでいる時にどこからともなく声が聞こえた。

「おい、若い衆よ。お前はお坊さんになってはどうか」

そら耳かと思ったがまたしばらくすると

「和美よ。坊さんになってみてはどうか」

箱の中から聞こえてきた。これは阿弥陀様がしゃべってござると感じて、

「ええ、私がですか」

と思わず答えた。

「そうだ、お前だ。お前は若いのに寺の仏事を手伝いに来た。えらいぞ。お坊さんになってこの新本堂をずっ

と守っていくのだ」

「はい。わかりました」

ということで、昭和四十四年に京都で得度を受けた。

それから五十年がたった。令和元年の報恩講の終わりに私の五十年の記念式が行われた。

廣讃寺報恩講を
五十年勤めて感じるところ

伊藤 和美

思い起こせば三菱重工で働いていた私は亮昭住職の勧めで得度を受け僧侶となった。

親鸞聖人の命日をお勤めする報恩講は真宗寺院にとって一年で一番大きな行事である。

僧侶となった昭和四十四年の頃は報恩講を一月十五日から三日間やっていたが今よりももっと寒く大変でした。その後十二月十五日からとなり、さらにその後十二月初旬となり、現在では十一月一日から三日間となっている。

報恩講では余間に親鸞聖人の生涯を描いた御絵伝をかけ、別院の列座による御伝鈔拝読が行われる。

そしてお勤めでは女人講の人たちが助音についていた。その後廣讃寺に同朋会ができたので助音をする日を分けて、二日目は同朋会の人たち、三日間を女人講の人たちが勤めました。参加人数は二十名ほどだった。

今もその助音は同朋会の人たちによりほそぼそと続けられている。

また報恩講には法中もたくさんみえた。相焼香の浄信寺、廣讃寺から出た誓願寺と堅誓寺、稲葉地の了通寺、岩塚の林高寺、遍慶寺、中村の正賢寺、西光寺。そして縁のあった真照寺と慈法寺の住職がみえてお勤めをした。

五十年の間、さまざまな説教師の先生がみえて聞法をしたくさんのことを教えていただいた。

令和二年（2020年）年忌表

年回	年回にあたる没年
一周忌	平成31年・令和元年（2019年）
三回忌	平成30年（2018年）
七回忌	平成26年（2014年）
十三回忌	平成20年（2008年）
十七回忌	平成16年（2004年）
二十三回忌	平成10年（1998年）
二十七回忌	平成6年（1994年）
三十三回忌	昭和63年（1988年）
三十七回忌	昭和59年（1984年）
四十三回忌	昭和53年（1978年）
四十七回忌	昭和49年（1974年）
五十回忌	昭和46年（1971年）

行事予定

十二月十四日（土）七時半 同朋委員会・例会
（役員は七時）
十九日（木）二時～四時 学習会
二十八日（土）十時 二十八日講・女人講
三十一日（火）三時 歳末勤行
十一時半～十二時半まで 除夜

一月一日（祝）十時 修正会
十一日（土）七時半 同朋委員会・例会
（役員は七時）
十九日（日）二時～四時 学習会
二十八日（火）十時 二十八日講・女人講

20組 行事予定

十二月十五日（日）十一時半～十五時
東別院報恩講
お勤め稽古の後、
外陣で助音につきます
一月二十六日（日）五時 ご命日のつどい
新年会